

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■指導農業士会飛騨支部 夏季経営研修会で互いの経営を学びました

指導農業士会飛騨支部では、互いの経営を知ることで新たな経営の視点や手法を学ぶため、夏季経営研修会を開催している。

9月1日、高山市丹生川町のトマトとほうれんそうの3戸の経営事例を視察したのち、岐阜県足立農政部長とJAひだ志田代表理事組合長、高山市・飛騨市を招き意見交換を行った。

農林事務所から所長等が出席し、農業士会と連携した担い手育成について意見を交わした。今後も指導農業士会の組織活動を支援するとともに、連携した担い手育成をすすめる。



【農政に関する意見を交換】

■担い手 高山市の就農体感ツアーを開催支援

9月9～10日、飛騨地域内外から集まった就農希望者や、農業に興味のある参加者16名を対象に就農体感ツアーが開催され、農業普及課も開催支援を行った。

トマト、ほうれんそう、果樹農家を訪問し、生産者の語る農業の魅力や苦勞に聞き入った。トマトの収穫体験と選果場見学も行い、高山市の農業について見識を深めた。ツアーの最後には個別相談が実施され、就農に向けた真剣な質問が活発に出た。

農業普及課では、関係機関と連携し、担い手の確保や就農準備から就農後までの一貫した支援を継続して行っていく。



【生産者のほ場を見学】

ぎふ農畜産物のブランド展開

■飛騨山ぶどう研究会 収穫に向け現地巡回を実施

9月12日、飛騨山ぶどう研究会では、高山市内の7名の会員が各ほ場の生育状況を確認し収穫時期を決定するため、現地巡回を行った。

今年は春の霜の影響で、着果数が昨年よりやや少ないものの、病気は少なく、糖度の高い山ぶどうが収穫できる見込みである。

農業普及課では今後も巡回による栽培指導を行い、飛騨山ぶどう研究会の活動を支援していく。



【各生産者のほ場を巡回】

■夏秋トマト 飛騨統一ほ場審査を開催支援

飛騨野菜出荷組合トマト部会では、秋期の安定出荷に向け、毎年9月に生産農家の栽培管理状況の審査を行っている。

9月12日、各地区(飛騨・下呂地域)から選出された代表者7名のほ場を審査した。審査項目は、生育、着果、果実の品質、病害虫の発生、ハウス内外の管理状況等で、農業普及課も審査員として参加した。

代表ほ場は、いずれも栽培管理が行き届いており、優劣のつけがたい審査となった。

今後は、実績の部(単収、A品率等)の点数が加えられ、12月の飛騨トマト部会全体反省会において表彰が行われる。



【着果状況等を審査】

■夏秋トマト データ駆動型農業実証に向けた機器の設置を支援

農業普及課では、国の事業を活用し、スマート農業機器を用いた秋期の果実品質向上の検証に取り組んでいる。

10月からの実証開始に向け、サイドビニール自動開閉装置(商品名：電動カンキット)の設置を支援した。

今年度はサイドビニールの設定温度を見直し、より効果的に果実の着色を促進させ品質の向上を目指す。

今後、10か所において、ほ場環境データおよび果実の結露の発生状況をモニタリングする。得られたデータは、秋期のハウス被覆方法に関する指導に活用していく。



【駆動機の設置・調整】

■宿儺かぼちゃ 第19回宿儺かぼちゃ品評会を開催

宿儺かぼちゃ研究会では技術向上のため、かぼちゃの品質を競う品評会を開催している。本年度は、一般部門23点、大物部門2点、ユニーク部門11点、字彫り部門13点が出品された。

春先の低温や夏場の猛暑にも関わらず、生産者の丁寧な栽培管理により、非常に手間の掛かった高品質な出品物が並んだ。そのため難しい審査となったが、一般部門6名、その他部門2～4名ずつが受賞した。

農業普及課では、今後も研究会と連携し、高品質な宿儺かぼちゃの生産、ブランド維持に努めていく。



【講評する普及指導員・知事賞入賞品】

■夏秋なす 現地研修会を開催

9月22日、吉城蔬菜出荷組合特産部会なす部会の現地研修会が開催され、11名が出席した。

現地ほ場において、作業の上手な生産者が実際に切り戻し剪定を行い、参加者が芽の残し方や誘因方法等について熱心に情報交換を行った。農業普及課からは、ほ場で確認された害虫の対策について説明した。

農業普及課では、JAひだの営農指導員と連携しながら、なす栽培を支援していく。



【剪定方法について意見交換】

地域資源を活かした農村づくり

■水稻 耕畜連携によるWCSの収穫が進む

ホールクroppサイレージ(WCS)は、子実と茎葉をまるごと刈り取りロール状に成型したものを、フィルムでラッピングし乳酸発酵させる牛の発酵粗飼料である。

畜産の盛んな飛騨では、広い地域でWCS用の稲やトウモロコシの栽培と利用を進めており、WCS用稲は125haにもなる。

これらの収穫が、地域の営農組合を中心に、8月上旬から始まった。作業は10月いっぱいまで続く。現在は早生系の品種の収穫が終わり、今後、晩生系の品種の収穫が行われる。

農業普及課は、WCSに用いる品種の選定や、適期収穫に向けた支援をしており、今後も継続していく。



【機械連携による収穫】